

令和 7 (2025) 年度

# 事業報告書

(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日)

学校法人 三浦学園

## 目次

### I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 主たる事務所の住所
- 3 建学の精神
- 4 学校法人の沿革
- 5 設置する学校・園等
- 6 学校・園等の学生数の状況
- 7 収容定員充足率
- 8 役員の概要
- 9 役員賠償責任保険の概要
- 10 評議員の概要
- 11 会計監査人の概要
- 12 理事選任機関の概要
- 13 教職員の概要
- 14 組織図

### II 事業の概要

- 1 有明教育芸術短期大学事業報告
- 2 品川学藝高等学校事業報告
- 3 品川学藝幼稚園事業報告
- 4 品川学藝保育園事業報告

### III 財務の概要

### IV 学校法人の業務の適性を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

- 1 関係する決議の概要
- 2 体制整備及び運用状況の概要

## I 法人の概要

### 1 法人の名称

「学校法人三浦学園」

### 2 主たる事務所の住所

〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号

ホームページ：<http://www.miuragakuen.ac.jp/index.html>

### 3 建学の精神

「愛と和と誠実」

### 4 学校法人の沿革

- 明治 36年 山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立  
39年 女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
- 大正 13年 校舎を中野打越に移転
- 昭和 2年 日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去  
19年 学校法人三浦学園成立(3月31日)  
22年 校舎を品川区豊町に移転  
24年 日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置  
25年 日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置  
28年 日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける  
29年 日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置  
36年 日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止  
47年 日本音楽学校に厚生大臣指定の保母養成科を設置  
53年 日本音楽学校が専修学校に認可  
63年 日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校音楽科「バレエコース」設置
- 平成 4年 日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工  
5年 三浦洋義理事長及び学園長に就任  
7年 日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止  
9年 日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置  
11年 厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置  
13年 日本音楽学校保育園設置  
14年 日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置  
15年 日本音楽学校創立100周年  
20年 有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)  
21年 有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学  
22年 日本音楽学校を廃止  
23年 日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止  
26年 有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止  
27年 有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止  
28年 日本音楽高等学校 普通科募集停止  
29年 日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集

30年 有明教育芸術短期大学創立10周年

令和 5年 日本音楽高等学校音楽科 幼児教育コースを募集停止

日本音楽高等学校を女子校から共学校に変更

日本音楽高等学校を品川学藝高等学校に名称変更

品川学藝高等学校普通科に「リベラルアーツコース」及び「eスポーツエデュケーションコース」設置

品川学藝高等学校音楽科の「バレエコース」を「パフォーミングアーツコースバレエ専攻」へ変更、

「舞台芸術コース」を「パフォーミングアーツコースミュージカル専攻」へ変更

品川学藝高等学校音楽科の「音楽コース」を「ミュージックコース」へ名称変更

日本音楽学校幼稚園を品川学藝幼稚園に名称変更

日本音楽学校保育園を品川学藝保育園に名称変更

7年 有明教育芸術短期大学に『専攻科 子ども教育専攻』設置

## 5 設置する学校・園等

| 学科         | コース・専攻                                      | 所在地                            |
|------------|---------------------------------------------|--------------------------------|
| 有明教育芸術短期大学 |                                             | 〒135-0063                      |
| 子ども教育学科    |                                             | 東京都江東区有明二丁目9番2号                |
| 品川学藝高等学校   |                                             | 〒142-0042                      |
| 普通科        | ・リベラルアーツ<br>・eスポーツエデュケーション                  | 東京都品川区豊町二丁目16番12号              |
| 音楽科        | ・パフォーミングアーツ<br>バレエ専攻<br>ミュージカル専攻<br>・ミュージック |                                |
| 品川学藝幼稚園    |                                             | 〒142-0042<br>東京都品川区豊町二丁目16番12号 |
| 品川学藝保育園    |                                             | 〒142-0042<br>東京都品川区豊町二丁目16番12号 |

## 6 学校・学部・学科等の学生数の状況

〈令和7年5月1日現在〉

| 学科         | コース・専攻                 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 現員数 |
|------------|------------------------|------|------|------|-----|
| 有明教育芸術短期大学 |                        | 100  | 56   | 300  | 203 |
| 子ども教育学科    |                        | 100  | 56   | 300  | 203 |
| 品川学藝高等学校   |                        | 100  | 118  | 300  | 471 |
| 普通科        | リベラルアーツ                | 100  | 11   | 300  | 76  |
|            | eスポーツエデュケーション          |      | 28   |      | 137 |
| 音楽科        | パフォーミングアーツ<br>バレエ専攻    |      | 23   |      | 70  |
|            | パフォーミングアーツ<br>ミュージカル専攻 |      | 40   |      | 129 |
|            | ミュージック                 |      | 16   |      | 59  |
| 品川学藝幼稚園    |                        | 35   | 17   | 150  | 49  |
| 品川学藝保育園    |                        | 9    | 1    | 26   | 19  |

## 7 収容定員充足率

〈毎年度3月31日現在〉

|            | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 有明教育芸術短期大学 | 74.0  | 82.3  | 82.3  | 75.3  | 67.7  |
| 品川学藝高等学校   | 53.7  | 55.7  | 91.7  | 146.7 | 157.0 |
| 品川学藝幼稚園    | 59.3  | 50.0  | 38.7  | 33.3  | 32.7  |
| 品川学藝保育園    | 100.0 | 100.0 | 80.7  | 73.1  | 73.1  |

※小数点以下第2位を四捨五入

## 8 役員（理事・監事）の概要

定員数 理事6名、監事2名

〈令和8年3月31日現在〉

| 区分 |     | 氏名    | 就任年月日     | 現職                         | 業務執行<br>理事 | 外部<br>理事 |
|----|-----|-------|-----------|----------------------------|------------|----------|
| 理事 | 常勤  | 三浦 裕明 | 令和7年5月29日 | 理事長                        |            |          |
| 理事 | 非常勤 | 三浦 洋義 | 令和7年5月29日 | 学園長                        |            | ○        |
| 理事 | 常勤  | 若林 彰  | 令和7年5月29日 | 有明教育芸術短期大学学長<br>品川学藝高等学校校長 |            |          |
| 理事 | 非常勤 | 森戸 由久 | 令和7年5月29日 | 創価女子短期大学名誉教授               |            | ○        |
| 理事 | 非常勤 | 井上 貴文 | 令和7年5月29日 | ヒトトバデデザイン(株)<br>代表取締役社長    |            | ○        |
| 理事 | 非常勤 | 辻 香織  | 令和7年5月29日 | (公財)新国立劇場運営財団              |            | ○        |
| 監事 | 非常勤 | 朝倉 和行 | 令和7年5月29日 | (株)朝倉代表取締役                 |            |          |
| 監事 | 非常勤 | 陰山 雄司 | 令和7年5月29日 | 岩井機械工業株式会社主幹               |            |          |

## 9 役員賠償責任保険の内容

理事会決議により、令和3年6月1日から役員賠償責任保険に加入

1. 団体契約者  
日本私立中学高等学校連合会
2. 被保険者  
理事、監事、評議員及び管理職職員
3. 主な補償内容  
法律上の損害賠償責任に基づく賠償金、争訟費用等
4. 保険加入期間中の総支払限度額  
1億円

## 10 評議員の概要

定員数 評議員7名

〈令和8年3月31日現在〉

| 区分  |     | 氏名     | 就任年月日     | 現職            |
|-----|-----|--------|-----------|---------------|
| 評議員 | 常勤  | 雨宮 伸太郎 | 令和7年5月29日 | 本学園法人事務局長     |
| 評議員 | 常勤  | 松本 幸浩  | 令和8年3月17日 | 品川学藝高等学校副校長   |
| 評議員 | 非常勤 | 水本 眞澄  | 令和7年5月29日 | 元日本音楽学校幼稚園長   |
| 評議員 | 非常勤 | 磯 是詔   | 令和7年5月29日 | 元本学園法人事務局長    |
| 評議員 | 非常勤 | 根本 美香  | 令和7年5月29日 | 根本美香バレエスクール主宰 |
| 評議員 | 非常勤 | 細田 洋平  | 令和7年5月29日 | 合同会社よすが学院代表   |
| 評議員 | 非常勤 | 平田 靖典  | 令和7年5月29日 | 株式会社フジテレビジョン  |

## 11 会計監査人の概要

定員数 会計監査人2名

〈令和8年3月31日現在〉

| 区分    | 氏名    | 就任年月日     | 現職    |
|-------|-------|-----------|-------|
| 会計監査人 | 藤本 欣哉 | 令和7年5月29日 | 公認会計士 |
| 会計監査人 | 川崎 定昭 | 令和7年5月29日 | 公認会計士 |

## 12 理事選任機関の概要

寄附行為 第六条 この法人の理事選任機関は、理事会とする。

2 理事選任機関の構成員は、全ての理事とする。

## 13 教職員の概要 〈令和7年5月1日現在〉

### ①短大教員

| 設置校名       | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 合計 | 兼務者 |
|------------|----|-----|----|----|----|----|-----|
| 有明教育芸術短期大学 | 10 | 3   | 1  | 1  | 0  | 15 | 26  |

\*学長は教授に算入

### ②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

| 設置校名     | 専任教諭・保育士 | 兼務者 |
|----------|----------|-----|
| 品川学藝高等学校 | 24       | 81  |
| 品川学藝幼稚園  | 6        | 5   |
| 品川学藝保育園  | 11       | 1   |

### ③短大・高校・幼稚園・保育園職員

| 設置校名       | 専任職員 | 兼務者 |
|------------|------|-----|
| 有明教育芸術短期大学 | 12   | 4   |
| 品川学藝高等学校   | 11   | 2   |
| 品川学藝幼稚園    | 1    | 0   |
| 品川学藝保育園    | 2    | 0   |

#### 14 組織図〈令和7年5月1日現在〉

※ 別紙資料の通り

### II 事業の概要

- 1 有明教育芸術短期大学事業報告
- 2 品川学藝高等学校事業報告
- 3 品川学藝幼稚園事業報告
- 4 品川学藝保育園事業報告

※ 別紙資料の通り

### III 財務の概要

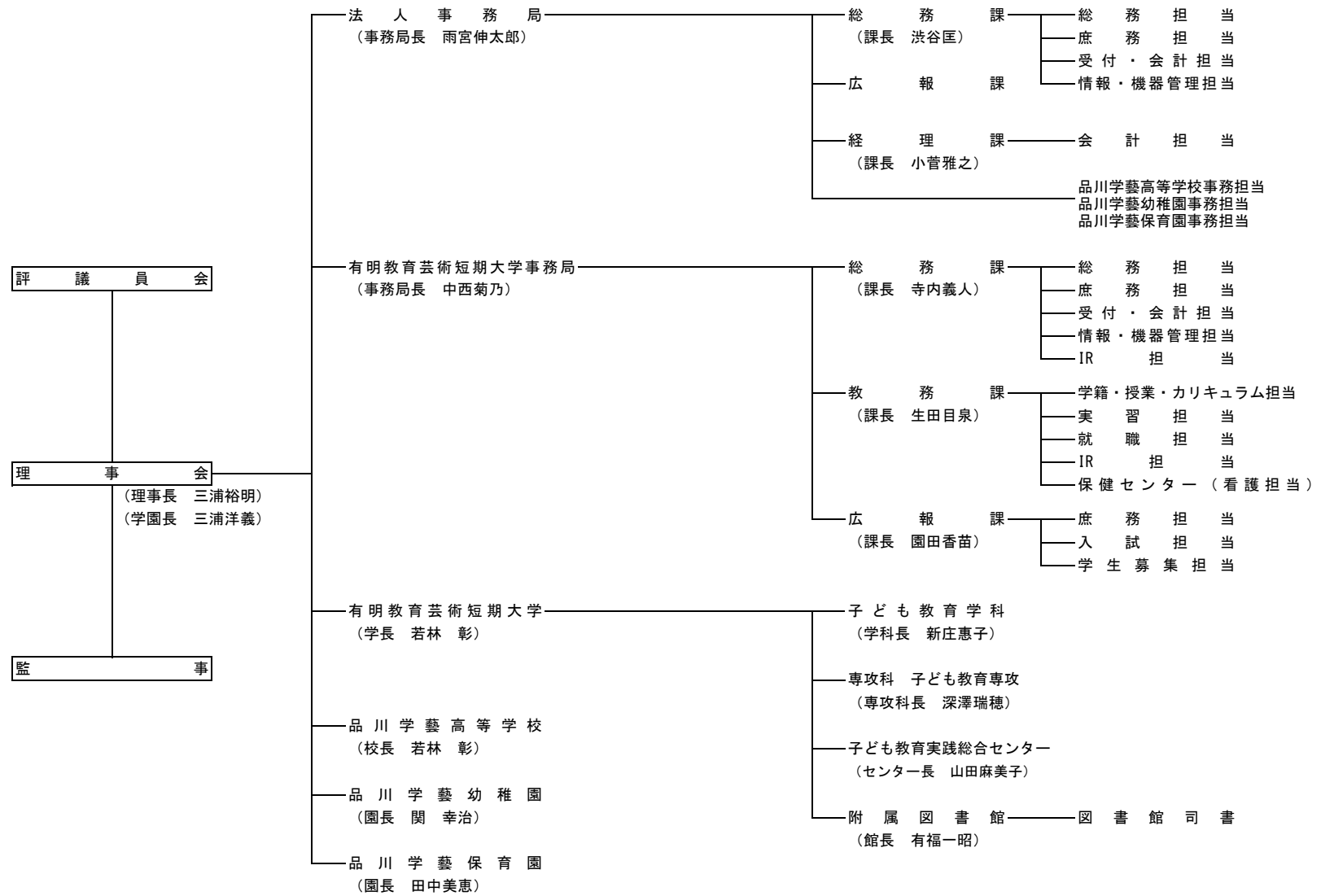
※ 別紙資料の通り

### IV 学校法人の業務の適性を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

- 1 関係する決議の概要
- 2 体制整備及び運用状況の概要

※ 別紙資料の通り

(令和8年3月31日)





# 令和7年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

## 1 教育課程

専任教員14名（教授9名、准教授4名、助教1名）、非常勤教員29名で、教育課程の編成・実施にあたった。

### （1）役 職

|                |        |          |
|----------------|--------|----------|
| 学 長            | 若林 彰   | （二期 3年目） |
| 副 学 長          | 長田 信彦  | （再任）     |
| 学 科 長          | 新庄 恵子  | （新任）     |
| 附属図書館長         | 有福 一昭  | （再任）     |
| 子ども教育実践総合センター長 | 山田 麻美子 | （再任）     |
| 専攻科科长          | 深澤 瑞穂  | （新任）     |

### （2）教育課程の編成

#### ①品川学藝高等学校との連携を強化したカリキュラムの構築

##### ◎芸能系（ミュージカル）科目の新設

- 1 「エンターテインメントⅠ～Ⅲ（各通年）」 ミュージカル基礎から応用

##### ◎デジタルコンテンツ系の科目の充実

- 1 「データサイエンス」 地域保育園とのデータ連携
- 2 「プログラミング基礎」 プログラミング基礎
- 3 「動画クリエイター入門」 作成から投稿までの基礎
- 4 「教育 ICT 活用」 教科学習における ICT 活用
- 5 「情報リテラシー 上級」 情報教育上級
- 6 「情報リテラシー」 情報教育初級
- 7 「デジタルアニメーション」 アニメーション作成
- 8 「Minecraft で学ぶプログラミング」 プログラミング

##### ◎「未来デザインⅠ～Ⅵ」全学生必修、学年別の編成で実施

- ・1年次 大学への適応指導、履修指導
- ・2年次 実習指導
- ・3年次 キャリア指導（就職支援）

#### ② 情報デジタル副専攻プログラムの構築

主専攻である「教育」および「保育」に加え、情報活用能力やデータリテラシーの習得を目的とした「情報デジタル副専攻プログラム」を構築した。本プログラムでは、IT パスポート試験（国家資格）および MOS（Microsoft Office Specialist）の取得を目標としている。

また、所定の卒業要件を満たした修了者には、主専攻の学位とは別に、「情報デジタル副専攻プログラム修了証明書」を発行することとした。本プログラムは、日本人学生のみならず、留学生にとっても関心の高い内容となっており、将来の進路や就職を見据えた実践的な学びとして、多様な学生の学習ニーズに対応する取り組みとなっている。

有明教育芸術短期大学

# 情報デジタル副専攻 プログラム

本プログラムは、現代社会のあらゆる分野で必須とされる高度な情報活用能力とデータリテラシーを体系的に学習することを目的としています。

本プログラム修了を通じて、以下の2つの資格の取得を目指し、卒業後の多様なキャリアパスを支援します。

## 目指す資格

### ① ITパスポート試験【国家資格】

企業活動、IT 管理、情報技術の基礎を理解し、IT を適切に活用できる能力を証明する

### ② MOS (Microsoft Office Specialist)

Word、Excel、PowerPoint といったビジネスソフトの実践的な操作スキルを証明する

## 履修科目

### 教育教養科目

- ・情報リテラシー
- ・プログラミング基礎
- ・データサイエンス
- ・e スポーツ概論
- ・動画クリエイター入門

### 分野別応用科目

- ・教育と ICT 入門
- ・子ども教育特別講座（プログラミング）
- ・Web デザイン
- ・情報リテラシー（応用）
- ・データサイエンス（応用）
- ・情報システム開発と管理
- ・デジタルアニメーション

## 修了認定

本プログラムの履修申請を行い、本学の卒業要件を満たした者に、主専攻の学位とは別に「情報デジタル副専攻プログラム修了証明書」を交付します。

### ③オンライン授業ウィークの設置

全ての授業において、前期2回、後期2回、オンライン授業を実施した。  
形態は、①同時双方向型ハイフレックス形式（教室での授業を配信）の授業とした。  
学生は、登校型、非登校型を任意で選択した。②休日については、オンデマンド授業の配信を行った。

＜前期＞ 4月28日（月）～5月9日（金）

＜後期＞ 12月22日（月）～1月9日（金）（12/27～1/4を除く）

### ④教授法の充実

- ・FD研修を実施し、アクティブ・ラーニング（主体的、対話的で深い学び）を取り入れた指導の充実を図った。
- ・ICTを活用した指導の充実を図った。

オンライン授業の実践 Google Classroom の活用

オンデマンド授業 YouTube の配信

双方向型授業の展開 zoom を活用した授業

### （3）教育課程の点検

- ・7年度及び8年度の教育課程の点検を行った。入学生のニーズや単位数の負担を考慮し、科目の統合や廃止及び必修科目と選択科目の見直しを行った。開設学期の見直しや令和8年度入学予定である留学生のニーズに応じた新設科目の設定等を行った。（・日本語講座 ・文化とマナー ・おもてなし産業 ・産業経営）
- ・教育課程の改訂に伴い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングの改訂を行った。
- ・教育課程の改訂及び昨年度から導入したターム制を反映させ、履修規則及び履修規則別表を改正した。

### （4）学習成果の把握・評価・公表

- ・前期及び後期の GPA 分布状況にて学習成果の把握・評価をすると共に、本学ウェブ上に公表した。
- ・前期に「基礎学力テスト（外部テスト）」を実施し、学生の基礎学力の把握及び評価結果を踏まえた担任からのフィードバックを行った。また、「ライフキャリア演習」及び「未来デザイン」授業内で、「基礎学力テスト（外部テスト）」の振り返りシートを学生に記述させることによって、学生自身が課題を見つけ改善に向けて行動できるように指導を行った。

### （5）学生に対する教務的な指導

- ・4月に新入生及び在校生、専攻生に対して、履修に関するオリエンテーションを行った。
- ・前期及び後期開始時に、個別履修指導が必要な学生に対して教務的な指導を行った。
- ・授業への出席率が低い学生に対して、呼出指導（全5回）を行い、指導に応じない学生の保証人に対する通知措置を実施した。

## 2 学生生活

### (1) 初年次研修 1年生全員合宿の実施

#### ①合宿の目的

新入生の大学生活スタートを支援し、3年間の学びをサポートする第一歩としてガイダンス、オリエンテーション、親睦の機能をもたせた1年生全員合宿を行う。

- ・各種申請書類提出、授業履修、学修、子ども教育学科の概要など、大学生活に必要な情報を与える。

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等に向けた3年間の学修の流れなどについて、ガイダンスを行い、1年生が大学生活に見通しをもてるようにする。

- ・学生相互、上級生、教員との親睦を図り学生の人間関係形成を図る。

- ・新2年生有志のメンターは企画担当として活動の場を設定することにより、人間関係形成能力、リーダーシップ等の実践的な学びの場とする。

#### ②実施の概要

##### ○実施日時・場所

2025年5月17日（土）、18日（日）

一般財団法人人材開発センター富士研修所

○参加者 1年生60名、2・3年生メンター、13名

教員12名 事務局1名 理事長

### (2) 有明祭

11月8日（土）9日（日）一般公開で実施した。

学生有志による「有明祭」実行委員会」を中心に企画を行い、一般公開という形で実施した。

サークル、有志の学生団体によるパフォーマンスを大ホール及びドラマ演習室で行った。飲食、展示、イベント等については、各教室、グラウンド、中庭での実施であった。一昨年度までサンリオからキャラクターを招待してイベントを行っていたが、予算縮小のため、本学非常勤教員の大島先生による「ヤッシーと遊ぼう」として実施した。参加した地域の子どもたちには大変好評であった。

## 3 教員評価の実施

令和元年9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」に基づき、本年度も教員評価を実施した。本年度で7回目の実施となる。

教員評価は、本学教員が自己の教育・研究活動等を点検・評価することを通して、本学における教育研究活動の活性化を図るとともに、教員の諸活動に対する支援・啓発を促進し、本学の教育、研究、社会貢献等の改善・向上に資することを目的としている。

対象者は、前年度1年間に本学専任教員として在籍した教授、准教授、講師および助教とした。

評価領域は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域とし、各領域についてA～Dの評点に基づく自己点検・評価を実施した。

<評価内容>

(1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

(2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績  
④外部研究費の導入実績

(3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員  
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

(4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

(5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和6年度における教員活動評価を実施した。(提出者は13名中13名)

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した5名に対し、規定に基づき顕彰を行った。(学長奨励賞・赤坂澄香・池口洋一郎・今泉良一)

## 4 研究活動

(1) 有明教育芸術短期大学紀要第16巻

・研究論文 3編 研究ノート 4編

<研究論文>

①保育者を目指す「子ども観」 (教授 赤坂澄香)

<研究ノート>

②小学校体育科における主体的・対話的で深い学びと初任教諭の実践的課題  
(客員教授 若林研司)

<その他>>

③特別活動の社会的意義について

ジョン・デューイの教育思想から見直す (教授 石井友行)

④ネットラジオ番組の制作と放送内容についての教育的考察 (講師 山崎早苗)

(2) 子ども教育実践総合センター 子ども教育実践研究第8巻

<研究論文>

①災害時における子育て家族ケア (客員教授 小濱 哲)

②キャリアサポートセンターにおけるキャリア支援プログラムの実践

-小学校教員採用選考に向けた取り組み

(教授 池口洋一郎 キャリアサポートセンター 佐越真紀子)

### ③保育内容総論の授業における新たな実践

ー保育とICTに着目して

(講師 今泉良一)

<実践報告>

①2025年度実践教育研究会報告

(教授 山田麻美子)

②2025年度「子どもたちとともに」活動報告

(助教 伊藤菜々子)

## 5 自己点検・評価

### (1) 情報公開

令和6年度の教育課程に関する自己点検・評価をホームページで公開した。

### (2) 令和7年度私立大学等改革総合支援事業

「令和7年度私立大学等改革総合支援事業（「タイプ1 『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」）」が掲げる調査票に基づき、34の視点から整備した。整備の結果については、私立大学事業団に申請したところ選定大学となった。

なお、タイプ1の選定ラインは74点（本学は75点）となっており、短大の選定率は21%（申請101校、選定21校）である。

| 項目 | 採点 | 満点 | 設問                                      |
|----|----|----|-----------------------------------------|
| 1  | 2  | 2  | 全学的な教学マネジメント体制の構築                       |
| 2  | 1  | 3  | IR機能の強化                                 |
| 3  | 3  | 3  | 卒業時アンケート調査の実施・公表及び活用                    |
| 4  | 3  | 3  | アクティブ・ラーニング型の科目の開設                      |
| 5  | 2  | 2  | 情報リテラシー科目の開設                            |
| 6  | 1  | 1  | ICTを利活用した教育の計画、体制整備及び双方向型授業や自主学習支援などの実施 |
| 7  | 3  | 3  | GPA制度の導入及び活用                            |
| 8  | 1  | 1  | CAP制の設定                                 |
| 9  | 1  | 1  | ティーチング・ポートフォリオの導入・活用                    |
| 10 | 1  | 1  | 大学の教育活動への学生の参画促進                        |
| 11 | 3  | 3  | 学修成果等の可視化・企業等との意見交換                     |
| 12 | 0  | 3  | 学修歴証明のデジタル化                             |
| 13 | 2  | 2  | アカデミック・アドバイジングの導入                       |
| 14 | 3  | 3  | 学力を多面的・総合的に評価する一般選抜の実施                  |
| 15 | 5  | 5  | 一般選抜における記述式問題の出題                        |
| 16 | 4  | 4  | 入学者選抜の多面的・総合的な評価及び学生の能力を伸長するための取組       |
| 17 | 4  | 4  | 「数学」「情報」の試験問題の出題                        |
| 18 | 4  | 4  | 総合的な英語力の評価                              |
| 19 | 0  | 3  | 多様な背景を持った学生の受け入れへの配慮                    |
| 20 | 2  | 4  | 多様な背景を持った学生への修学支援                       |
| 21 | 4  | 4  | 高等学校教育と大学教育の連携強化                        |
| 22 | 2  | 2  | 入学者選抜の妥当性の検証                            |

|    |   |   |                                      |
|----|---|---|--------------------------------------|
| 23 | 3 | 3 | IR等の知識を有し、データ分析を実施する専門家の配置及びIRの情報公表  |
| 24 | 5 | 5 | 数理・データサイエンス・AI教育に係る科目の開講             |
| 25 | 0 | 3 | 分野・学部等を超えたカリキュラム編成の実施及び改善・検証         |
| 26 | 3 | 3 | インターンシップ科目等の実施                       |
| 27 | 4 | 4 | 実務家教員の活用促進                           |
| 28 | 0 | 3 | 学生の学修の幅を広げるような教育課程の工夫                |
| 29 | 0 | 2 | 他大学等との高度な連携・統合等に向けた取組の実施             |
| 30 | 3 | 3 | 学事暦の柔軟化に関する取組                        |
| 31 | 4 | 4 | 教育リソースの活用                            |
| 32 | 0 | 2 | 外国人教員の割合                             |
| 33 | 1 | 2 | 外国語のみによる授業科目の開講・外国語のみの授業科目の履修のみによる卒業 |

## 6 募集対策

- ・R8年は77名の出願があり、R7年度の56名より21名と大幅に増加した。
  - ・在籍者数は203名(1学年67名平均)から189名(1学年63名平均)と減少した。
  - ・男女共学になって初めての品川学藝高校(以下、品藝)からの内部進学者は10名(女2名・男8名)であった。
  - ・R8年度は男性の出願数が開学以来最高値の25名となった(R7年度は最小値5名)。
- 品藝、留学生の出願が伸びたことが要因である。

(別紙「募集活動報告」より転記)

### オープンキャンパス参加者

|      | 子ども教育学科希望<br>受験対象者実数 | 参加者総数(延べ数) 注：高1・2と友人含む、保護者は除く |     |     |             |
|------|----------------------|-------------------------------|-----|-----|-------------|
|      |                      | 高3以上                          | 高2  | 高1  | 計           |
| R7年度 | 118名                 | 106名                          | 59名 | 7名  | 169名        |
|      |                      | 留学生                           |     |     | 12名         |
| R6年度 | 113名                 | 148名                          | 63名 | 29名 | 243名(不明2名)  |
| R5年度 | 118名                 | 143名                          | 67名 | 21名 | 232名(中学1名)  |
| R4年度 | 182名                 | 227名                          | 68名 | 22名 | 321名(不明4名)  |
| R3年度 | 176名                 | 212名                          | 71名 | 26名 | 309名        |
| R2年度 | 149名                 | 179名                          | 38名 | 7名  | 225名(その他1名) |

#### <留学生について>

夏季休業期間より、全教員で日本語学校訪問を実施し、約130校を訪問した。さらに後期からは、重点校約30校に対象を絞り、6名の教職員による集中訪問を実施した。特に反応のあった日本語学校については、5～10回程度の継続的な訪問を行い、関係構築および本学理解の促進に努めた。

また、留学生を対象としたオープンキャンパスを2回実施し、本学の教育内容や学生生活について情報提供を行った。なお、新年以降についてもオープンキャンパス実施を計画していたが、募集停止決定を受け、中止とした。それに伴い、その後の留学生募集についても行わないこととした。

最終的な入学決定者は10名であり、内訳は以下のとおりである。

- ・ネパール 男子2名、女子2名
- ・ベトナム 男子2名、女子3名
- ・フィリピン 男子1名

## 7 退学者

退学者は、7名（6年度比 +4名）である。4名進路変更、3名精神疾患が理由である。その他、除籍は2名（5年度比 +1名）である。教員及び教務課職員によるきめ細かな個別対応の成果が上がっていると考えている。

## 8 高大連携

品川学藝高等学校との連携

### （1）科目等履修生

#### ① 前期火曜5限

|             |     |             |
|-------------|-----|-------------|
| 教育とICT      | 2名  | (3年)        |
| 生徒指導とキャリア教育 | 3名  | (3年)        |
| 音楽1         | 5名  | (2年1名 3年4名) |
| 保育の心理学      | 12名 | (2年3名 3年9名) |

#### ②後期火曜日 5限

|              |    |      |
|--------------|----|------|
| 子どもと健康       | 1名 | (1年) |
| 国語（書写を含む）    | 1名 | (1年) |
| 英語とコミュニケーション | 1名 | (1年) |
| 子どもと環境       | 1名 | (1年) |

#### ③有明教育芸術短期大学一日体験学習

参加者 1～2年生普通科全員、音楽科全員

内容 有明教育芸術短期大学にて12月18日に実施されている授業12科目の中から、生徒が1科目をそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

### （2）品川学藝高等学校生徒対象の有明教育芸術短期大学によるオープンキャンパスを実施した。

実施日 9月18日 対象学年 1～3年生普通科 213名  
音楽科 256名

### （3）教員連携

有明教育芸術短期大学と毎月1回、全10回、高大連携会議を開催した

## 9 専攻科

令和7年度の専攻科入学者は5名であり、内訳は男子2名、女子3名であった。（小学校コース3名、幼児教育コース2名）

本年度は、本学初の専攻科生を迎えての教育活動となった。学内における講義科目（26単位）に加え、学外でのインターンシップ（5単位）を実施し、実践的な学びの充実を図



った。修了レポートの作成については、学生たちも取りまとめに苦労する様子が見られたが、教員の指導のもと提出を完了し、無事に修了式を迎えることができた。

なお、1名については、小学校教諭免許取得を目的として、令和8年度も科目等履修生として引き続き学びを深める予定である。

また、令和8年度の専攻科入学予定者は14名となっている。

| 有明教育芸術短期大学 専攻科 子ども教育専攻 カリキュラム (案) |                |                 |                            |                  |                        |                        |                        |                  |    |
|-----------------------------------|----------------|-----------------|----------------------------|------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------|----|
| 専攻に係る<br>授業科目の区分                  |                | 専攻科における開設科目     | 専攻科の基礎となる<br>有明教育芸術短期大学の科目 | 単<br>位           | 初等教育<br>を主とした<br>履修科目A | 幼児教育<br>を主とした<br>履修科目A | 情報教育<br>を主とした<br>履修科目A |                  |    |
| 教育学・<br>教育心理学に<br>関する科目           |                | 教育の歴史と思想        | 教育原理とカリキュラム論               | 2                | 4科目<br>8単位<br>以上選択     | 4科目<br>8単位<br>以上選択     | 4科目<br>8単位<br>以上選択     |                  |    |
|                                   |                | 現代教職論           | 教職・保育者論                    | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 学校経営論           | 教育の組織と運営                   | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 特別活動研究          | 特別活動と総合的な学習の指導法            | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 教育技術とICT        | 教育とICT活用                   | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 生徒指導論           | 生徒指導とキャリア教育                | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 小学校インターンシップ     | 教育実習(小学校)                  | 8                |                        |                        |                        | 必修               |    |
|                                   |                | 幼稚園インターンシップ     | 教育実習(幼稚園)                  | 5                |                        |                        |                        |                  | 必修 |
|                                   |                | 情報教育インターンシップ    | (ICT関連企業実習)                | 5                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   | (論文)           | 修了研究            | 卒業研究A(論文)                  | 2                | 必修                     | 必修                     | 必修                     |                  |    |
| 教科教育に<br>関する科目                    |                | 国語科教材研究と授業づくり   | 国語科指導法                     | 2                | 6科目<br>12単位<br>以上選択    |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 社会科教材研究と授業づくり   | 社会科指導法                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 算数科教材研究と授業づくり   | 算数科指導法                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 理科教材研究と授業づくり    | 理科指導法                      | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 音楽科教材研究と授業づくり   | 音楽科指導法                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 図画工作科教材研究と授業づくり | 図画工作科指導法                   | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 体育科教材研究と授業づくり   | 体育科指導法                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 外国語教材研究と授業づくり   | 外国語の指導                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
| 幼児教育・保<br>育に<br>関する科目             |                | 保育内容研究「健康」      | 保育内容(健康)・子どもと健康            | 2                |                        | 6科目<br>12単位<br>以上選択    | 3科目<br>6単位<br>以上選択     |                  |    |
|                                   |                | 保育内容研究「人間関係」    | 保育内容(人間関係)・子どもと人間関係        | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 保育内容研究「環境」      | 保育内容(環境)・子どもと環境            | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 保育内容研究「言葉」      | 保育内容(言葉)・子どもと言葉            | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 保育内容研究「音楽表現」    | 保育内容(表現)Ⅰ・子どもと表現           | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 保育内容研究「造形表現」    | 保育内容(表現)Ⅰ・子どもと表現           | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 幼児教育・保育施設運営論    | 教育の組織と運営                   | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 幼児体育理論と実践       | 運動と健康Ⅰ・Ⅱ                   | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | リトミック           | 音楽Ⅰ(理論と基礎実技)・体育Ⅱ(ダンス)      | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 児童文化教材研究と実践     | 子どもの文化                     | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
| 芸術に<br>関する科目                      |                | 音楽と表現(ピアノ)      | ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)              | 2                | 2科目<br>4単位<br>以上選択     | 2科目<br>4単位<br>以上選択     | 1科目<br>2単位<br>以上選択     |                  |    |
|                                   |                | 音楽と表現(声楽)       | 音楽Ⅱ(うたと楽器)                 | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 音楽と表現(和楽器)      | 音楽Ⅱ(うたと楽器)                 | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   |                | 音楽と表現(アニメーション)  | 子ども教育特別講座2 アニメーション         | 2                |                        |                        |                        |                  |    |
|                                   | 情報科学に<br>関する科目 |                 | 情報教育と社会                    | データサイエンス         |                        |                        | 2                      | 4科目<br>8単位<br>必修 |    |
|                                   |                |                 | 情報科学実践演習A(ゲームデザイン)         | プログラミング          |                        |                        | 2                      |                  |    |
|                                   |                |                 | 情報科学実践演習B(動画作成)            | 動画撮影基礎YouTuber入門 |                        |                        | 2                      |                  |    |
|                                   |                |                 | 情報科学実践演習C(Webデザイン)         | Webデザイン          |                        |                        | 2                      |                  |    |
| 専攻科における修得単位数                      |                |                 | 専門科目                       | 27               | 27                     | 27                     |                        |                  |    |
|                                   |                |                 | 関連科目                       | 4                | 4                      | 10                     |                        |                  |    |
|                                   |                |                 | 専攻に係る単位以外                  | 0                | 0                      | 0                      |                        |                  |    |
|                                   |                |                 | 合計                         | 31               | 31                     | 37                     |                        |                  |    |

## 10 キャリア形成・就職支援

公立小学校17名、公立保育園5名が合格、キャリア形成・就職支援の充実を図った。

### (1) 公立小・幼・試験対策プログラム『夢 Realize (ユメリア)』の実施

『夢 Realize (通称：ユメリア)』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向けて自主的かつ協働的な学びを行うための支援プログラムで学びを深めた。

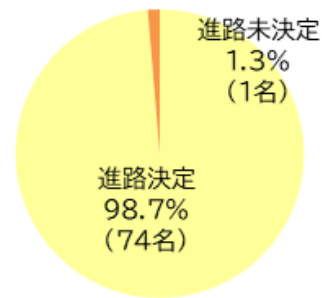
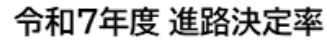
|       |                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ねらい   | 1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。                                                                                                                                                                             |
| 受講対象者 | 公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生                                                                                                                                                                                  |
| 実施内容  | 同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。<br>採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。<br>それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。 |
| 指導員   | ・学科教員・キャリアサポートセンター職員                                                                                                                                                                                            |

### (2) 就職状況

| 令和7年度卒業生 |     | 計  | 男  | 女  |
|----------|-----|----|----|----|
| 卒業生数     |     | 75 | 13 | 62 |
| 希望進路     | 就職  | 54 | 9  | 45 |
|          | 進学  | 20 | 4  | 16 |
|          | その他 | 2  | 0  | 2  |
| 決定進路     | 就職  | 53 | 9  | 44 |
|          | 進学  | 20 | 4  | 16 |
|          | その他 | 1  | 0  | 1  |

＜進路決定率＞

卒業生75名のうち、  
98.7%にあたる  
74名の進路が決定した。



＜進路内訳＞

保育所 . . . . . 27名 (36.5%)

うち公立5名

幼稚園 . . . . . 3名 (4.1%)

認定こども園 ・ 2名 (2.7%)

施設 . . . . . 2名 (2.7%)

うち公立1名

小学校 . . . . . 9名 (12.2%)

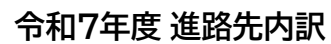
一般企業 . . . . . 9名 (12.2%)

地方公務員・・・1名 (1.4%)

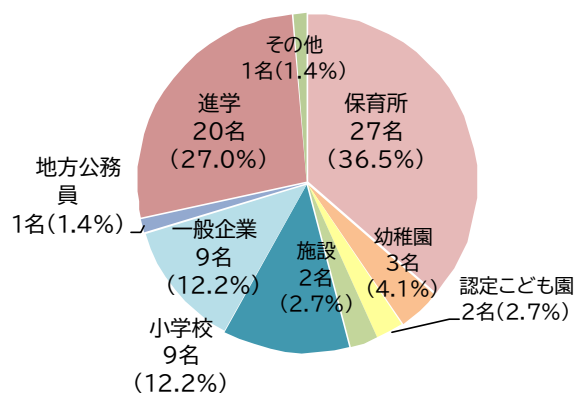
進学 . . . . . 20名 (27.0%)

うち専攻科14名

その他 . . . . . 1名 (1.4%)



(進路決定者74名のうち)



# 令和7年度 品川学藝高等学校 事業報告

## 1 学習活動

品川学藝高等学校としてスタートして3年目を迎えた。本年度は、品川学藝高等学校生として入学した生徒が全学年に揃い、生徒数も過去最大規模となった。普通科、音楽科の各コースにおいて、基礎的な学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、各コースにおける専攻実技・専攻実習の技能および表現力を深めることを目指し、教育活動を展開した。

特に、本年度は主体的な学びを重視した授業改善を進めた。また、各コースの専攻実技や専門的な学習についても「学力」の一部として捉えることを全教職員で確認し、「知識・技能」のみならず、「思考力・判断力・表現力」および「社会に向かう力」の3つの観点から学力を育成することを年度当初に共有した。さらに、大学進学を一つの基準として、学習活動全体の充実を図った。

### (1) 基礎・基本の定着の徹底

#### ① 日々の授業の充実

授業のねらいや課題を明確にし、生徒が見通しを持って学習に取り組める授業づくりを重視した。

#### ② 個に応じた指導の充実

習熟度に応じた学習展開を工夫するとともに、前期・後期終了後の休業期間には、数学・英語を中心とした補習授業を実施した。

#### ③ 学習規律の浸透

授業の始めと終わりの挨拶や合図、学習上の約束事項の徹底を図り、落ち着いた学習環境づくりを進めた。

### (2) 主体的に学ぶ力の育成

#### ① 自ら学び、考える授業の工夫

一斉授業中心の学習形態からの転換を図り、生徒が主体的に考え、表現する授業づくりを進めた。

#### ② 総合的な探究の時間の充実

指導計画の改善を進め、課題設定、情報収集、課題解決、発表準備、資料作成、発表までの指導過程を明確化した。

#### ③ 自学自習習慣の確立

家庭学習の充実を図り、自ら学習に取り組む姿勢の育成に努めた。

#### ④ ICTを活用した学習の充実

配布した iPad を「文房具」として位置付け、授業内での積極的な活用を進めた。また、各教科・領域において情報活用能力の育成を図った。

### (3) 学ぶ喜びの体感

#### ① 「わかる喜び」を感じる授業づくり

生徒が学ぶ楽しさや達成感を実感できる授業展開を目指した。

#### ② 基礎学習の充実

育成すべき力を明確化し、基礎学力の定着を図った。また、英語検定・漢字能力検

定を実施し、生徒の学習意欲向上につなげた。

#### (4) ICT を活用した学習環境の充実

これからの社会で必要となる情報活用能力の育成を目的として、全校生徒にタブレット端末を所持させ、各教科・教育活動における活用方法の工夫と改善を進めた。

## 2 生徒指導

本年度は、男女共学化が全学年に広がる中で、これまで3年間継続して重視してきた「人と人とのかかわり」を、生徒指導の根幹として改めて位置付けた。基本的な生活習慣の確立とともに、生徒が自ら考え、判断し、行動できる力の育成を目指して指導を進めた。

#### (1) 基本的な生活習慣の確立

##### ① 挨拶指導の充実

「あいさつは、されるものではなく、自らするものである」という考え方を重視し、「挨拶をする側」の体験を積み重ねる指導を行った。生徒会主催による朝の校門での挨拶運動や、学級単位での取り組みを実施するとともに、来校者や外部の方々との挨拶を通して、社会性の育成を図った。

##### ② 外部講師や来校者との関わりの充実

特別授業やゲストティーチャーによる学習活動を通して、外部の方々との関わり方や礼節について実践的に学ぶ機会を設けた。また、校内で外部の方と接する際の挨拶や言葉遣いについても継続的に指導を行った。

#### (2) 規範意識の自律的育成

##### ① 主体的に考える生徒指導の推進

「基本的な生活ルール」や「社会のルール」について、一方的に守らせるのではなく、生徒自身がその意味や必要性を考え、判断し、身に付けていくことを重視した指導を行った。

##### ② 自己指導能力の育成

校則やルールについても、単に従わせる指導ではなく、「なぜ守る必要があるのか」を生徒自身に考えさせる指導を進めた。制服の着こなしについても、自ら判断し行動できるよう、自主性を重んじた指導を継続した。また、教員側においても、生徒の主体性を尊重する生徒指導への意識改革を進め、「自己指導能力の育成」を生徒指導の基本理念として取り組んだ。

#### (3) 「心と体のアンケート」の実施

年2回、「心と体のアンケート」を実施し、生徒の状況を継続的に把握・比較できるようにした。養護教諭による分析結果を担任へ共有し、生徒理解や生活改善、生徒指導に活用した。特に、必要に応じたスクールカウンセラーとの面談指導において、一定の成果を上げることができた。

### 3 高大連携

有明教育芸術短期大学との連携

#### (1) 科目等履修生

##### ① 前期火曜 5 限

|             |       |                 |
|-------------|-------|-----------------|
| 教育と I C T   | 2 名   | ( 3 年)          |
| 生徒指導とキャリア教育 | 3 名   | ( 3 年)          |
| 音楽 1        | 5 名   | ( 2 年 1 3 年 4 ) |
| 保育の心理学      | 1 2 名 | ( 2 年 3 3 年 9 ) |

##### ②後期火曜日 5 限

|              |     |        |
|--------------|-----|--------|
| 子どもと健康       | 1 名 | ( 1 年) |
| 国語 (書写を含む)   | 1 名 | ( 1 年) |
| 英語とコミュニケーション | 1 名 | ( 1 年) |
| 子どもと環境       | 1 名 | ( 1 年) |

##### ③有明教育芸術短期大学一日体験学習

参加者 1 ～ 2 年生普通科全員、音楽科全員

内容 有明教育芸術短期大学にて12月18日に実施されている授業12科目の中から、生徒が1科目をそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

#### (2) 品川学藝高等学校生徒対象の有明教育芸術短期大学によるオープンキャンパスを実施した。

実施日 9 月 18 日 対象学年 1 ～ 3 年普通科 2 1 3 名  
音楽科 2 5 6 名

#### (3) 教員連携

有明教育芸術短期大学と毎月 1 回、全10回、高大連携会議を開催した

### 4 各学年における指導

#### (1) 1 学年

オリエンテーションにおける学年の立ち上げは概ね予定通り進み、教員から発信した「品川学藝の生徒としての在り方」に関するメッセージを、生徒たちはしっかり受け止めていた様子が見られた。一方で、SNS の不適切使用や授業中の悪ふざけ、タブレット端末の不適切使用等については課題も見られ、継続的な指導を行った。

音楽科コンサートでは、3・4組の生徒が舞台に挑戦する姿を、普通科1・2組の生徒たちが関心を持って鑑賞しており、学科を越えて互いの活動を認め合う様子が見られた。学園祭では、4クラスすべてが模擬店を出店し、中心となって熱心に活動する生徒を軸に、それぞれの生徒が自分にできる役割を果たしながら取り組む姿が見られた。

一方で、授業中に動画撮影を行う事案が発生したため、個別指導および三者面談を実施した。本人も自身の行動を振り返り、反省する姿勢を示すことができた。また、SS の時間には教員による巡回指導も行い、生徒の SS への取り組み状況は徐々に向上してきている。

進級指導については、全員進級を目標に、12 月から 1 月にかけて欠席数の多い生徒に対して三者面談等を実施し、学年団として継続的に声掛けを行った。その結果、全員が無

事に進級することができた。

年間を通して、「品藝の生徒としてあるべき姿」を模索させながら、日常生活の向上に努めるよう継続的な指導を行った。また、体調不良、不安傾向、学業不振等が見られる生徒については、保護者と密に連絡を取りながら対応を進めた。

さらに、クラス委員や班長などを中心としたリーダー育成にも取り組み、生徒同士が互いに声を掛け合い、自主的に行動する自治の精神の定着を進めているところである。

## （２）２学年

学年担任制については、教員間で密に情報共有を行いながら対応し、一定の効果を上げることができた。Google ドキュメントを活用し、連絡事項の共有・均一化を図ったが、出欠確認等に一部漏れが生じる場面も見られた。また、生徒主体の活動については、クラス委員の機能が十分に活性化するまでには至らなかった。

進路指導については、学年進路指導部を中心に学年全体で協働して指導を行い、生徒の進路意識も徐々に高まってきている。１月に実施したベネッセ総合学力テストの結果を活用することで、面談指導の質の向上にもつながった。これまで大学進学を具体的に考えていなかった生徒についても、大学進学を進路選択肢として前向きに捉える姿勢が見られるようになってきている。

修学旅行においては、各係が事前に活動計画を作成することで、生徒主体の運営をより促進することができた。特に、活動の見通しを持たせることを重視した結果、生徒間の意識差の縮小にもつながった。交流活動についても一定の成果が見られ、今後も継続しながら課題を整理し、次年度へ引き継いでいく必要がある。また、早期の役割分担は有効であり、教員が責任を持って業務に取り組みやすい体制づくりにつながったため、次年度も継続していきたい。

大学進学指導を中心に、学年全体での協働体制の構築に力を入れてきた。そのため、学年教員間における情報共有についても、より具体的かつ頻繁に行う体制づくりを進めた。

前期は、１年次より継続していた生徒間トラブルの影響により、落ち着かない状況も見られたが、学校および学年教員の協力により、後期には安定した学校生活を送ることができた。修学旅行を学年全体の目標として取り組んだことで、教員・生徒双方に一体感が生まれた。また、教員間では積極的な声掛けと役割分担を通して協力体制を築くことができ、多面的な生徒支援につなげることができた。次年度は進路実現に向けた重要な時期となるため、引き続き教員間の連携を強化し、生徒一人ひとりの進路達成を支えていきたい。

## （３）３学年

共学化後最初の学年として、年間を通して様々な課題やトラブルも見られたが、それらを一つひとつ乗り越え、最終的には学年全体として落ち着きが見られるようになった。指導においては、自分たちが最上級生として学校を創っているという意識を持たせることを重視した。

全校集会においては、３年生が時間通りに集合し、静かに待機するなど、基本的な行動を率先して実践し、下級生の範となる姿が見られた。校外学習では、和食のテーブルマナー講座にも意欲的に取り組むことができた。

音楽科コンサートでは、日々の地道な練習を積み重ね、質の高いステージを創り上げることができ、生徒にとって大きな成長の機会となった。また、普通科の生徒も鑑賞を通して仲間の努力に触れ、自身の成長につなげる姿が見られた。

学園祭への取り組みについては、生徒によって意欲の差も見られたが、それぞれのコースの実情に応じて活動を進め、成果を上げることができた。前日準備から当日にかけては、担任が過度に介入することなく、生徒主体で運営を進めさせたことで、自主性を育む機会となった。

卒業公演では、生徒たちは公演の意義を理解し、本番において生き生きと演技をやり遂げることができた。卒業式は学外施設「きゅりあん」で実施したが、大きな混乱もなく、円滑に終えることができた。

生徒たちは、自らが品川学藝高等学校の初代生徒であるという意識を持ち、目的意識をもって日々努力する姿勢を示していた。また、男女を問わず下級生との関わりを積極的に持ち、下級生からも慕われる存在として、学校全体に良い影響を与える3年生となった。

## 5 修学旅行

- ・ 2月2日 ～ 6日      アメリカ合衆国    ハワイ州    オアフ島方面
- ・ 対象（参加））生徒      2年生    169人
- ・ 引率      10人（担任    養護教諭    eスポーツ担任    校長    理事長）

### （1）目的

- ①ハワイ旅行を経験することによって、国際的感覚を養い、より広い視野にたち、物事を考察できるようにする。
- ②異文化の生活様式・考え方・風土を理解する。
- ③共同生活を通して、相互理解を深め、好ましい人間関係を高める。
- ④集団生活に必要な規律遵守・協調性・責任感を身につける。
- ⑤事前学習、現地学習、事後学習に主体的に取り組むことにより、研究・探究する姿勢を身につける
- ⑥自分の将来の夢を実現させるため、思考力、判断力を身につけるとともに、人間性の向上を図る

### （2）実施の内容・成果

海外（ハワイ）の文化と自然について学ぶとともに、英会話の実践的体験活動を重視した活動を行うことが出来た。自主研究での体験や街に出た英会話体験は実践的な学びとなった。

LHRの時間確保が難しく、十分な事前学習とは言えなかったが、ハワイ検定やフラ体験を実施した。教員の役割分担を明確にし、修学旅行係を中心とした運営体制を整えた結果、リーダー生徒は主体的に活動した。一方で、係生徒間で取り組みの温度差が見られた。プログラムでは新たに現地の生徒や学生、地域の方々との交流活動を導入し、生徒から高い評価を得た。帰国後には、「英語学習に力を入れよう」といった意欲の向上も見られ、全体として有意義な行事となった。

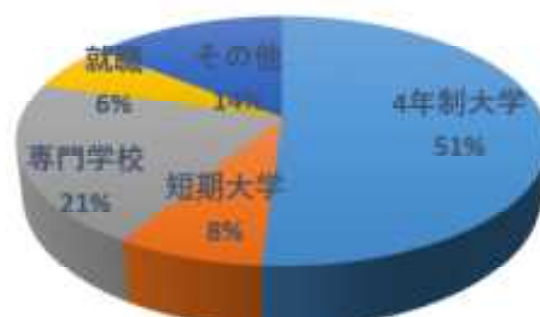


## 6 進路指導

＜令和7年度の進路状況＞

| 全体    |     |     |
|-------|-----|-----|
| 4年制大学 | 75  | 51% |
| 短期大学  | 11  | 7%  |
| 専門学校  | 31  | 21% |
| 就職    | 9   | 6%  |
| その他   | 21  | 14% |
| 計     | 147 |     |

進路状況 全体



| 普通科   |    |     |
|-------|----|-----|
| 4年制大学 | 34 | 50% |
| 短期大学  | 8  | 12% |
| 専門学校  | 17 | 25% |
| 就職    | 2  | 3%  |
| その他   | 7  | 10% |
| 計     | 68 |     |
| 音楽科   |    |     |
| 4年制大学 | 41 | 52% |
| 短期大学  | 3  | 4%  |
| 専門学校  | 14 | 18% |
| 就職    | 7  | 9%  |
| その他   | 14 | 18% |
| 計     | 79 |     |

普通科



音楽科



3年生については、4月時点において、1・2年次における進路指導の蓄積が十分とは言えず、基礎的内容から改めて指導を行う必要があったと分析している。集団指導のみでは内容の定着が難しい場面も多く、個別対応を中心とした指導を進めた。また、教員間で情報共有を図り、複数の教員による支援体制を構築していく必要性も認識された。

6月に示された大学進学率 70 %という目標に向け、進路に迷う生徒への継続的な働きかけを行ったものの、結果として大学・短期大学進学率は 58 %にとどまった。しかしながら、生徒が自身の進路に向き合う姿勢の育成については、一定の成果が見られたものと考えている。

本年度は、初の共学化、普通科設置、在籍 140 名という近年で最大規模の学年運営となった。また、3学年教員による生徒理解が十分に深まる前段階での指導でもあり、試行錯

誤を重ねながらの対応となった。そうした中、外部業者を活用した進路説明会、面接講座、進学フェア等を実施し、生徒への情報提供の充実を図ることができた点は効果的であった。

今後、大学進学率向上に向けては、早期からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。大学進学を見据え、1年次から3年間を通した進路指導体制について再構築する必要性を感じている。また、模試の振り返りや休業中講習についても、実施内容や活用方法を整理し、学年全体として統一的に指示・運用できる体制整備が求められる。個別対応についても、学年・分掌を越えた連携体制を強化するとともに、指導の標準化を図る必要がある。一方で、生徒の中には、「もう勉強したくない」「こちらの方が易しい」といった安易な理由から専門学校を進路選択するケースも見受けられた。専門学校進学を希望する生徒に対しては、十分な面談を通して、自らの将来を左右する重要な進路選択であることを理解させ、安易に進路を決定することのないよう、熟慮を促す指導が必要である。

本年度は、体制面・制度面ともに整備途上の中での進路指導となり、多くの課題が明らかとなった。一方で、教員間の連携や外部資源の活用を通して、生徒への支援体制を一定程度構築することができたとも考えている。今後は、本年度の課題を踏まえ、指導体制および運用の明確化を図り、早期からの系統的な進路指導を推進することで、進学率の向上につなげていきたい。また、「みんなで大学へ行こう」という進学意識を学校全体に醸成していくことも重要であると考えている。

## 7 生徒募集

令和8年度 入学者数

|        | 普通科   |      | 音楽科 |        |        | 合計  |
|--------|-------|------|-----|--------|--------|-----|
|        | eスポーツ | リベラル | バレエ | ミュージカル | ミュージック |     |
| A推薦    | 19    | 6    | 24  | 32     | 13     | 94  |
| B推薦    | 0     | 0    | 1   | 1      | 0      | 2   |
| 一般(1次) | 5     | 10   | 5   | 13     | 4      | 37  |
| 入学決定   | 24    | 16   | 30  | 46     | 17     | 133 |

|     |    |    |    |    |    |     |
|-----|----|----|----|----|----|-----|
| 受検者 | 46 | 44 | 39 | 56 | 28 | 213 |
| 合格者 | 30 | 23 | 33 | 49 | 21 | 156 |

(1) 普通科の設置4年目となり、昨年度に比して受験者は普通科では半減、音楽科では、ほぼ同程度となった。これは、基準をA推薦①9教科の合計 29以上②5教科の合計 17以上。B推薦①9教科の合計 30以上②5教科の合計 18以上としたためと思われる。にもかかわらず定員100名に対して、213名が受験した。(昨年度248名)

(2) 普通科、一般合格28名の内、15名が入学し、54%の入学率である。音楽科は、一般合格30名の内、入学決定者は22名が入学し、73%の入学率である。

これにより普通科A推薦25名、一般入学15名、計40名。音楽科A推薦69名、B推薦2名、一般入学22名、計93名、併せて133名の入学者となり、入学定員ほぼ適性数内の入学者数となった。

## 8 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしてきた。  
特に学習面では、成績不振の生徒には、前期終了時点から、補習を行い、学力の保証に努めた。途中転学した生徒の数は、以下の通りである。

<理由>

- ・コースの学習方針との相違から通信制高校に転学
- ・海外のバレエ教室に留学するため通信制高校に転学

<途中転学や退学者数>

|     |     |          |           |           |     |
|-----|-----|----------|-----------|-----------|-----|
| 1 年 | 普通科 | eスポーツ：2名 | リベラル：1名   | 計         | 3名  |
|     | 音楽科 | バレエ：4名   | ミュージック：2名 | 計         | 6名  |
| 2 年 | 普通科 | eスポーツ：3名 | リベラル：2名   | 計         | 5名  |
|     | 音楽科 | バレエ：6名   | ミュージカル：1名 | ミュージック：1名 | 計   |
| 3 年 | 普通科 |          |           | 計         | 0名  |
|     | 普通科 |          |           | 計         | 0名  |
| 合 計 |     |          |           | 計         | 22名 |

## 令和7年度 品川学藝幼稚園 事業報告

### 1 保育活動

「園生活は 子どもが主人公！」を合言葉に、心身ともに健康な人間の育成を目指した。保育者との信頼関係を基盤に、集団生活の中で自己を十分に発揮し、主体的に遊びや生活が進められるようになるために、学年に応じた指導の重点を設定した。

#### 3 歳児（すみれ組）

○一人一人の発達や育ちを踏まえ、基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。

○保育者に親しみをもち、安心して過ごすことができるようにする。

○自己の想いを出しながら遊びを楽しめるようにする。

#### 4 歳児（ばら組）

○伸び伸びと自己を表現しながら好きな遊びを繰り返し楽しめるようにする。

○友達と関わる中で、相手の思いに気づいたり受け止めたりして、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

#### 5 歳児（まつ組）

○自分のめあてに向け、試したり考えたりして取り組み、やり遂げる達成感を味わえるようにする。

指導の重点を受け、月ごとの指導のねらいを達成できるよう取り組んだ。月ごとの指導のねらいについては、園だよりを通して保護者に周知した。

#### （1）英語指導

ロス・ビトナー先生の指導を受け、4 歳児、5 歳児が取り組んだ。月 2 回程度（1 回 30 分）の指導を受けた。英語の歌を歌ったり、動物や果物、野菜の名前を英語で言ったりと楽しく活動した。簡単な会話も行い、英語に親しむことができた。3 月から、3 歳児と 4 歳児の指導に変わり、令和 8 年度の移行をスムーズにできるようにした。

ジェマ先生に代わり男性のロス先生になったが、子どもたちは楽しく活動できた。

#### （2）器楽指導

渡辺正明先生の指導を受け、毎週 5 歳児が取り組んだ。（1 回 1 時間）10 月までは運動会の鼓笛演奏に向けての指導を中心とした。11 月からは、遊戯会に向けて、4 歳児、5 歳児の器楽指導となった。2 月からは、4 歳児が鼓笛演奏の初期指導を受けた。

#### （3）体育指導

4 歳児は不定期（1 回 45 分）櫻井由香先生から指導を受けた。3 月は 3 歳児

に移行した。5歳児は松本幸浩先生に運動会の組体操、リレーの指導を受けた。  
9月から短期間で集中して行うことができた。

#### (4) 幼小連携

令和7年度も品川区立宮前小学校と交流をもつことができた。

##### ①小学生職場体験 11月 6日(木)

宮前小学校より本園卒園生2名が来校。3歳児、4歳児・5歳児と交流を深めることができた。

##### ②小学校との交流会 12月9日(火) 給食体験

5歳児が宮前小学校に出向き、1年生、2年生の教室に分かれ、小学校の給食と一緒に食べた。配膳の仕方等も体験できた。

##### ③小学校との交流会 2月12日(木) 授業体験

5歳児が宮前小学校に出向き、1年生2クラスの教室に分かれ国語や算数の授業を体験した。

②③ともに、宮前小学校が積極的にかかわってくださり、目的を達成できた。

##### ④小学校散策 1～3学期

5歳児が4月から通学する小学校を外から見学した。園児が通う予定の小学校を見学し、園児一人一人の気持ちを高めることができた。

#### (5) 環境教育

園児たちの興味関心は高い。めだかやエビをいつでも観察できるようにした。

#### (6) 日々の保育

週案に沿って計画的に指導を行った。糊やクレパス、絵の具の使い方、折り紙の折り方など基本的な方法を指導し、園児が表現を楽しんでできるようにした。

また、ハーモニカや鍵盤ハーモニカ、カスタネットなども基本的な使い方を指導し、演奏活動を楽しめるようにした。

## 2 園の行事

### (1) 遠足

①1学期 5歳児 品川区民公園 5月16日(金)

4歳児 " 5月23日(金)

往路は、大井町駅集合、徒歩で現地まで。

復路は、大森駅まで徒歩、京浜東北線で大井町に出て解散した。

②2学期 5歳児 砧公園 10月10日(金)

4歳児 " 10月17日(金)

3歳児 鮫洲運動公園 10月24日(金)

3歳児は、急な雨のため園に戻り2歳児教室で昼食。

③3学期 5歳児 お別れ遠足 上野動物園 2月 6日(金)

### (2) 運動会 10月4日(土)

高校の校庭をお借りして実施した。午前中の開催とし、全園児一堂に会して行った。

(3) サマーフェスティバル 7月5日(土)

保護者の会主催。

(4) 遊戯会 12月13日(土)

(5) 卒園式 3月14日(土)

### 3 園児数の推移

|     | 4月1日 | 2月1日 |
|-----|------|------|
| 3歳児 | 17   | 17   |
| 4歳児 | 12   | 11   |
| 5歳児 | 20   | 20   |
| 計   | 49   | 48   |

※4歳児の減少は、転居による退園

### 4 卒園児の進学先

|            |    |           |     |
|------------|----|-----------|-----|
| 品川区立戸越小学校  | 5名 | 品川区立三木小学校 | 7名  |
| 〃 豊葉の杜学園   | 5名 | 〃 荏原平塚学園  | 1名  |
| 秋田市立御所野小学校 | 1名 | 港区立白金小学校  | 1名  |
|            |    | 計         | 20名 |

### 5 園内のデジタル化の推進

#### (1) 保育システムのデジタル化

保育ICT支援システム「ルクミー」(ユニファ株式会社)から「れんらくアプリ」に変更した。システムが異なり最初は戸惑ったが、欠席の管理、体温の記録、保護者と園からの連絡等に有効な活用ができています。

#### (2) iPadの活用

出欠席の確認や、保護者からの連絡確認に活用している。オンラインでの個人面談や保護者会等の運用も視野に入れて活用を考えていく。

### 6 園児募集の試み

#### (1) 園庭開放

- ① 1回目 4月23日(水) 雨天中止
- ② 2回目 6月25日(水) 〃
- ③ 3回目 9月10日(水) 11:30~12:30
- ④ 4回目 10月15日(水) 〃
- ⑤ 5回目 11月5日(水) 〃
- ⑥ 6回目 1月28日(水) 11:30~12:30

⑦ 7回目 3月18日(水) 11:30～12:30

(2) 2歳児教室

対象は、本園卒園児家庭とその他家庭(園庭開放で周知)

|   |           |      |        |
|---|-----------|------|--------|
| ① | 5月 7日(水)  | 4名参加 |        |
| ② | 5月14日(水)  | 4名参加 |        |
| ③ | 5月21日(水)  | 5名参加 |        |
| ④ | 5月28日(水)  | 4名参加 |        |
| ⑤ | 6月 4日(水)  | 5名参加 |        |
| ⑥ | 6月11日(水)  | 3名参加 |        |
| ⑦ | 6月18日(水)  | 6名参加 |        |
| ⑧ | 6月25日(水)  | 4名参加 |        |
| ⑨ | 7月 2日(水)  | 4名参加 |        |
| ⑩ | 7月 9日(水)  | 5名参加 |        |
| ⑪ | 7月16日(水)  | 5名参加 | 前期 11回 |
| ⑫ | 9月 3日(水)  | 4名参加 |        |
| ⑬ | 9月10日(水)  | 5名参加 |        |
| ⑭ | 9月17日(水)  | 3名参加 |        |
| ⑮ | 9月24日(水)  | 5名参加 |        |
| ⑯ | 10月 8日(水) | 5名参加 |        |
| ⑰ | 10月15日(水) | 3名参加 |        |
| ⑱ | 10月22日(水) | 1名参加 |        |
| ⑲ | 10月29日(水) | 5名参加 | 後期 8回  |

保険料 3,000円 1回 1,500円 を徴収した。

(3) 入園説明会

令和7年度は3回実施した。

|       |                  |              |
|-------|------------------|--------------|
| ① 1回目 | 7月19日(土) 10:00～  | 20家庭(22名)    |
| ② 2回目 | 9月13日(土) 10:00～  | 12家庭(12名)    |
| ③ 3回目 | 10月11日(土) 10:00～ | 6家庭(7名)      |
|       |                  | 合計 38家庭(41名) |

7 預かり保育

(1) 実施状況

① 通常保育後の預かり保育

- ・ 預かり保育延べ園児数 3,675名(令和8年3月末)
- ・ 実施日数 190日(令和8年3月末)

1日平均 19名

②長期休業期間中の預かり保育（令和6年度春季～令和7年度冬季）

- ・預かり保育延べ園児数 933名
- ・実施日数 50日 1日平均 18名

③振替休園日の預かり保育の実施

- ・7月14日（月）お泊り保育振替休園日 12名（長6、中2、少4）
- ・10月7日（月）運動会振替休園日 11名（長5、中2、少4）
- ・12月15日（月）遊戯会振替休園日 13名（長4、中4、少5）

④（冬季休業中）1月5日（月）～7日（水）の実施 34名

（長10、中9、少15）

（2）実施上の課題

①担当者の配置

- ・通常時の預かり保育は預かり担当（キンダー担当という）

通常勤務時間 9:30～17:30

18:30まで園児が残る場合 10:30～18:30

- ・担当者が休暇等を取得した際には、担任が代番をするが超過勤務となる。

- ・長期休業期間中はキンダー担当者だけに任せてしまうと、他の教員との勤務日数の差が大きくなる。このことから、長期期間の預かりに係る日数の均等化を図った。

②預かりの園児

- ・振替休園日の預かりは、『月極め』の園児のみとした。
- ・給食は提供しなかった。



# 令和7年度 事業報告

品川学藝保育園

## ・保育事業

- ・基本方針 品川学藝保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり、温かく家庭的な雰囲気大切に保育を実践している。
- ・空き定員を利用した未就園児の定期的な預かり（トキドキ保育）の充実を図り、地域の方にも保育園を利用して知ってもらう機会としている。今年度は8名の預かりを実施した。
- ・令和8年度は、子ども誰でも通園制度を開始する予定。
- ・建物の老朽化が進んでいるので適宜対応して頂きたい。

## ・保育実践

- ・戸外遊びも近隣の公園で繰り返し遊ぶ中で慣れ親しんでいる。クラス別に興味や発達に沿った計画をたて実践できたのではと思う。  
幼稚園2歳児教室や近隣の児童館・地域の資源等利用し活動の中に取り入れている。
- ・室内遊びでは発達に応じて玩具を入れ替え、レイアウトを変更し対応している。

## ・外部講師を招いての活動

- ・出張おはなし会 ゆたか図書館より2回 いつもと違う紙芝居や絵本を楽しむ。  
（べんちゃんと遊ぼう）年12回 うち2回はゆたか保育園と共に活動する。  
（英語で遊ぼう）年6回 （11月の活動は保護者6名が参観）

## ・食育

| 4月                     | 5月        | 6月                               | 7月                               |
|------------------------|-----------|----------------------------------|----------------------------------|
| 苗植え<br>(にんじん・枝豆・きゅうり)  | 行事食 子どもの日 | にんじん・きゅうりを収穫し給食で提供<br>苗植え（サツマイモ） | 行事食 七夕<br>トウモロコシの皮むき<br>パプリカ 種とり |
| 8月                     | 9月        | 10月                              | 11月                              |
|                        | きのこ割き     | 行事食 ハロウィーン<br>きのこ割き<br>サツマイモ収穫   |                                  |
| 12月                    | 1月        | 2月                               | 3月                               |
| 行事食お楽しみ食事会<br>ほうれん草種まき |           | 行事食 節分<br>クッキング ピザトーストづくり        | 行事食 ひなまつり<br>リクエスト給食             |

- ・毎月1回給食会議 各クラスリーダー・栄養士・調理師と行う。
- ・年間を通して食材に触れたり栽培を行うなどして食育活動を行っているが、食べてみようと思う意欲には

繋がりにくい。家庭とも連携しながら様々な食材に触れたり、味付けを食したりできると良い。

- ・調理と連携し、献立のメニューレシピを保護者が自由に手にできるようにしたところ好評だった。
- ・宗教食の園児は保護者了承の下、弁当持参となり個別で対応となった。
- 弁当・昼食の認識が違いお菓子などを持参し、声掛けしても中々伝わらないが繰り返し対応している。

## 安全・衛生対策

- ・毎月避難訓練を行い、6月救命救急講習・12月消火訓練は消防署と合同訓練を行う。
- ・公園で遊ぶ際には、公園チェック表を用いて安全管理を行う。
- ・各クラスにて安全チェック玩具点検を適宜行っている。
- ・備蓄の見直し 保護者へ非常食提供し知ってもらう機会とする。
- ・1月 胃腸炎集団発生 保健所へ報告

## 保護者支援

- ・保育参加や個人面談、保護者会を通じて保育園での生活を知ってもらい、個別相談や連絡帳・送迎時を通して保護者とのコミュニケーションを深め子どもの育ちを共に見守る事が出来た。
- ・保護者より連絡帳や出欠席はアプリを使用したいとの要望あり令和8年度からコドモンへ移行する。
- ・幼稚園の2歳児教室の利用風景を写真掲示し、園内に説明会ポスターやパンフレット配布等を行う。
- ・地域の保護者・見学者 計25名（うち入園した園児3名）
- ・一時保育 令和7年度は利用者なし
- ・トキドキ保育（空き定員を活用し、未就園児を対象にした定期的な預かり事業）  
0歳児4月～10月 週1回計8名利用していた。

## 地域交流

近隣保育園と交流を図ることで、子ども達も職員同士も顔見知りになり、多様な人との関りや地域資源を利用し豊かな育ちに繋がっている。

ゆたか保育園 園庭 2回 焼き芋会 べんちゃんと遊ぼう（9月・1月）

インクルージング広場ベル 3回

荏原第5地域 近隣の保育園10園程集まり杜松ホームにて交流会

## 研修

- ・外部研修（別紙）のびしなプロフェッショナルスクール・キャリアアップ研修等
- ・園内研修 園内の安全について ・AED講習（職員全員）

## 職員分担・勤務形態

- ・事務の時間を確保に課題が残る。クラス内での打ち合わせも時間の確保が難しいとの声は必ずあり工夫が必要となる。職員会議を夜ではなく昼に行う月もあり、負担軽減につながった。
- ・新年度当初は園児数も少なく職員配置も十分な設定ができるが、園児数増加には見通しを立てるのが難しく職員募集は課題が残る。（保育士がすぐには見つからない。）
- ・年2回職員のヒヤリングや自己評価表を用いて振り返りを行う。

|                                                                                                                                                                                                                                                                        |               |                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 1期（4・5・6・月）                                                                                                                                                                                                                                                            | ・春の健診 歯科健診    | 2歳児1名入園         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児受け入れ・・・4月1日現在 0歳児1名 1歳児8名 2歳児10名 計19名</li> <li>・はじめましての会 ・子どもの日の祝い会</li> <li>・保護者会（資料配布） ・トキドキ保育スタート</li> <li>・保育参観 （1歳児7名 2歳児10名参加）</li> </ul>                                                                              |               |                 |
| 2期（7・8・9月）                                                                                                                                                                                                                                                             | 0歳児1名入園       | 1歳児3名入園 2歳児1名退園 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・水遊び（学校グラウンド）沐浴・シャワー開始</li> <li>・七夕会</li> <li>・ミニミニ祭り</li> <li>・エアコン掃除</li> <li>・写真販売</li> </ul>                                                                                                                                |               |                 |
| 3期（10・11・12月）                                                                                                                                                                                                                                                          | ・秋の健康診断 ・歯科検診 | 0歳児8名入園         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会 125名参加（職員・園児含む）</li> <li>・ハロウィーンでは、近隣の商店の方や保護者の方よりお菓子を頂く。</li> <li>・第1回拡大委員会開催</li> <li>・個人面談</li> <li>・出張読み聞かせ（ゆたか図書館）</li> <li>・動画配信（音楽遊び）</li> <li>・お楽しみ食事会 ・布団乾燥</li> </ul>                                            |               |                 |
| 4期（1・2・3・月）                                                                                                                                                                                                                                                            | ・新入園児健康診断     |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年おめでとう会・節分・ひな祭りは園内で楽しむ</li> <li>・保護者会</li> <li>・第2回拡大委員会</li> <li>・2歳児クッキング（ピザトースト作り）</li> <li>・2歳児 遠足（エコル戸越）</li> <li>・防災設備点検</li> <li>・感染性胃腸炎が流行 （10名以上罹患し保健所に通達）</li> <li>・動画配信（日常保育の様子）・写真販売</li> <li>・さようならの会</li> </ul> |               |                 |

- ・品川区指導検査 1月30日（金）
- ・品川区巡回指導 8月・1月

## 2. 9) 内部統制システム整備の基本方針

本法人は、令和6年12月17日の理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本法人の基本方針を以下のとおり決定した。

### 1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為の理事会運営及び評議員会運営の定めに基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- ③ 職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- ④ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び文書管理規程に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- ⑥ 業務執行機関からの独立性を有する内部監査部門を設置し、業務の適正及び効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

### 2. リスク管理に関する体制

- ① リスク管理に関し、体制及び「リスク管理規程」を整備し、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にする。
- ② 「個人情報の保護に関する規定」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- ③ 事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- ④ リスクの統括管理については、内部監査部門が一元的に行うとともに、重要リスクが漏れなく適切に管理されているかを適宜監査し、その結果について業務を執行する理事及び理事会に報告する。
- ⑤ 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- ⑥ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- ⑦ 研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。

⑧ 理事会は、毎年、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

### 3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員が法令並びに寄附行為及び本法人の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、「コンプライアンス規程」を定める。
- ② 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。
- ④ 内部監査部門は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。
- ⑤ 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、「コンプライアンス規程」に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

### 4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- ① 監事は、監事監査規程に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- ③ 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。
- ④ 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
- ⑤ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、常務理事、業務執行理事並びに監事に報告する。
- ⑥ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- ⑦ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
- ⑧ 監事はその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

### 5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

## 4. 1 5) 内部監査規程

### 第1章 総 則

#### (目 的)

第1条 この規程は、学校法人三浦学園（以下、学園という。）における内部監査に関する基本的事項を定め、内部監査の運営を円滑に行うとともに、経営の合理化・効率化および業務の適正な遂行を図ることを目的とする。

#### (監査の種類)

第2条 内部監査の区分とその対象は、次のとおりとする。

##### (1) 会計監査

会計監査は、貸借対照表、損益計算書、注記事項、附属明細書およびその他の附属諸表の記載内容と記録計算が、経理諸規程に準拠して適正に行われているか否かを判断する。

##### (2) 業務監査

業務監査は、会計・財務・購買・人事・設備・教育・保育・研究・環境保全などの業務および制度（組織・規程・権限・業務分掌）の運用状況が、経営の経済性を発揮するうえで適正かつ妥当であるか否かを吟味するとともに、計数的に把握し得る経営活動の成果について、効率増進の観点からその経済性を検討する。

#### (監査組織)

第3条 内部監査（以下、「監査」という。）に関する業務は、内部監査委員会（以下、監査委員会という。）がこれを担当する。

2 監査委員会は、理事長の指名により次の者で構成する。

- ①常務理事
- ②法人事務局長もしくは法人事務局次長
- ③短期大学事務局長
- ④監事
- ⑤その他理事長が必要と認める者

3 監査責任者は、理事長が指名し、内部監査委員長（以下、監査委員長という。）として監査委員会を統括する。

- 4 監査責任者は理事長の許可を得て、必要に応じ、監査担当者を任命し委嘱することができる。ただし、監査の種類によっては理事長が別に指名する監査担当者をして、これを実施させることがある。

(監査責任者および監査担当者の任務)

第4条 監査責任者は理事長の命を受け、監査を統轄し、各監査担当者の監査分担を定める。

- 2 監査担当者は、監査責任者の命を受け、分担して監査を実施する。

(監査の区分および時期)

第5条 監査は、定期監査と臨時監査とに区分して行う。

- (1) 定期監査は、原則として、あらかじめ定められた監査計画に基づき継続的に  
行う監査をいう。  
(2) 臨時監査は、理事長から特に命ぜられた事項など、不定期に行う監査をいう。

(監査の方法)

第6条 監査は、質問・書面もしくは実地監査、またはこれらの併用によって行う。

(監査責任者および監査担当者の権限)

第7条 監査責任者および監査担当者の権限は、次のとおりとする。

- (1) 監査責任者および監査担当者は、被監査部門の関係者に対し、帳票および諸  
資料の提出、または事実の説明その他監査実施上必要な要求を行うことがで  
きる。  
(2) 監査責任者および監査担当者は、必要により被監査部門の関係者以外の関係  
者に対し、実査・立会い・確認および報告を求めることができる。  
(3) 前二号の要求を受けた者は、正当な理由なくしてこれを拒否し、または虚偽  
の回答をしてはならない。  
(4) 監査責任者および監査担当者は、監査の遂行上必要と認めた場合に限り、経  
営活動に関する会議への出席または議事録の閲覧を求めることができる。

(監査責任者および監査担当者の責任)

第8条 監査責任者および監査担当者は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) つねに学園利益の増進を図ることを主眼とし、あらゆる観点から事実を客観  
的に調査・検討し、その評定にあたっては公正不偏の態度で臨まなければなら  
ない。

- (2) 不正、誤びゅうの摘発にあたるだけでなく、問題解決の改善策を提案するよう心掛けなければならない。
- (3) 職務の遂行上知り得た学園の機密を、監査関係者以外に漏えいしてはならない。
- (4) 被監査部門に対し、直接、指揮・命令をしてはならない。
- (5) 監査の実施および調書や報告書の作成については、監査責任者および監査担当者としての十分な注意を持って行わなければならない。

(他の監査機関との調整)

第9条 監事監査および会計監査人監査との重複を避け、監査情報を交換するために、監査委員会は随時、監事または会計監査人と連絡・調整を行う。

## 第2章 監査の実施

(監査計画)

第10条 監査責任者は、各事業年度開始に先立って「監査計画書」を作成し、理事長の承認を得なければならない。

2 監査責任者および監査担当者は、この監査計画に基づいて、時機を失することなく、秩序整然と監査を実施しなければならない。

3 監査担当者は、監査の実施に先立ち、関係資料を参照して、調査項目に関する問題点およびその手続の検討を行うものとする。

(監査計画書の記載事項)

第11条 監査計画書には、次の各号の事項を記載するものとする。

- (1) 監査の区分
- (2) 監査の種類
- (3) 監査実施期間
- (4) 監査日程
- (5) 監査の方法
- (6) 監査担当者の氏名
- (7) 被監査部門名
- (8) その他必要な事項



(監査の通知)

第 12 条 監査は、原則として、「監査実施計画書」を被監査部門の部門長にあらかじめ通知して行うものとする。

(被監査部門との関係)

第 13 条 監査の担当者は、各部門が自己管理のために行う監査と密接な関係を保ち、監査を効率的に行うものとする。

(監査調書の作成)

第 14 条 監査担当者は、実施した監査の方法・内容および結果などについて、詳細な監査調書を作成しなければならない。

2 監査調書の作成は、正確、明瞭かつ具体的に記載しなければならない。

3 監査調書は、慎重な注意をもって整理し、相当の期間保存し、理事長の承認なくしてその全部または一部を部外者に示してはならない。

(説明会の開催)

第 15 条 監査終了後、被監査部門に対して説明会を開催し、被監査部門から意見の具申があるときは、監査責任者および監査担当者は、十分その意見を聴取し、監査報告に役立てるものとする。

### 第 3 章 監査報告

(監査報告書の作成)

第 16 条 監査責任者は監査終了後、監査調書その他の合理的証拠に基づき、速やかに「監査報告書」を作成し、理事長に提出しなければならない。

2 被監査部門長への監査報告書の交付は、理事長の承認を得たうえで、これを行う。

(監査報告書の記載事項)

第 17 条 監査報告書には、次の事項を記載する。

- (1) 監査の区分
- (2) 監査の種類
- (3) 監査実施期間

- (4) 監査日程
- (5) 監査の方法
- (6) 監査担当者の氏名
- (7) 被監査部門名
- (8) 監査実施結果の概要および講評
- (9) 監査の結果についての意見および勧告事項（改善案を含む。）
- (10) その他、参考事項

（勧告に対する回答書）

第 18 条 監査報告書で改善勧告などがある場合、これを受理した被監査部門長は、改善実施の計画、実施する場合の内容・期限などを付して、回答書を監査委員長に提出するものとする。

（回答書の確認）

第 19 条 被監査部門長より前第 18 条の回答書が提出された場合、監査委員長は、意見のあるものについては直ちに審議し、再度意見を述べるものとし、実施事項については処置の確認を行うものとする。

（監査報告書の保管）

第 20 条 監査報告書ならびに報告書の作成資料は、10 年間内部監査委員会において保管しなければならない。

#### 第 4 章 雑 則

（規程の改廃）

第 21 条 この規程の改廃は、理事長による。

付 則

この規程は、2023 年 4 月 1 日から施行する。